

研究結果

中国への共同進出において、日台企業はそれぞれ経営資源の優位性をもっており、補完することが可能である。すなわち、日本側の技術・ブランド力や品質管理、台湾側の中国との「同文同種」やネットワーク、交渉能力、意思決定スピードの速さが、それぞれ自分の経営資源を補完・補強できるわけである。近年、日台双方のアライアンスは、中国から、タイ、ベトナムなど東南アジアへと地理的な拡大を見始めるようになった。この日台アライアンスや日台経済交流を支えるため、堪能な日本語のみならず、ビジネスと産業知識を持った有能な日本語人材が欠かせないと思われる。

本研究では、まず台湾と中国における日台アライアンスの現状を把握する。そして、自動車産業とIT産業と商社業という最も重要な日台提携分野に絞って、台湾、中国、東南アジアを中心に事例研究を行い、日台アライアンスのパターンを究明する。最後に、この日台アライアンスを支える日本語人材の役割とその育成を考える。この際、日台アライアンスのパターンごとに、必要とされる専門能力を割り出す。また、能力指標のコンセプトに基づいて、各職場の必要な専門知識を検討する。

調査したケースはいずれも、台湾と日本のアライアンスにより、そのビジネスはかなり成功を収めている。これはいわゆる両者の経営資源の相互依存・補完、相互学習、価値創造などを経て、さらにケースによって、共創ネットワークの参加による「現地情報の共有」と「見えざる協調」のメカニズムが働いているわけである。

しかしながら、何とんでも、この日台アライアンスを支えている、堪能な日本語のみならず、ビジネスと産業知識を持った有能な日本語人材が欠かせないことである。このような人材の存在によって初めて、日台のビジネスや経済交流がうまくゆき、引いては、技術の導入と産業全般の交流が円滑に進み、台湾の産業高度化や第三国への進出にかなり貢献したと言えよう。

全般において、ビジネス会話、ビジネス文書、英語ビジネス文書、英会話、交渉能力、プレゼン能力、貿易実務、原価計算（会計）、産業知識、産業日本語などがある。つまり、上級日本語や応用日本語のほか、英語も課せられるし、また、ビジネスや産業知識、それから交渉とプレゼンといったコミュニケーション能力と、ビジネスマナーと異文化への理解も欠かせないものだと確認できる。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

黎立仁・楊家源「日台アライアンスと日本語人材の役割- 台湾、中国、東南アジアを中心とする事例研究-」、2009年文藻技術学院国際シンポジウム、2009.10.23、台湾・高雄

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

黎立仁・楊家源等「日台アライアンスと日本語人材の役割- 自動車産業、IT産業、商社業を中心とする事例研究-」『台湾応用日本語研究』2010年10月出版予定

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)